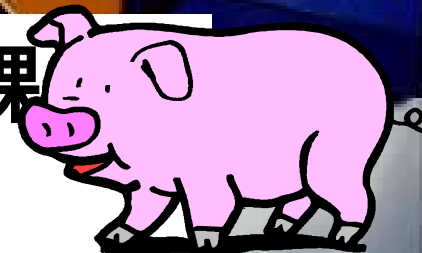
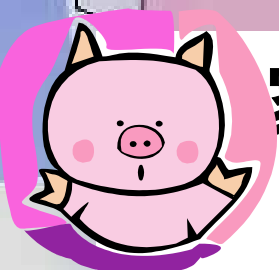


豚の遺伝的能力評価の推進



家畜改良センター 改良部 種畜課

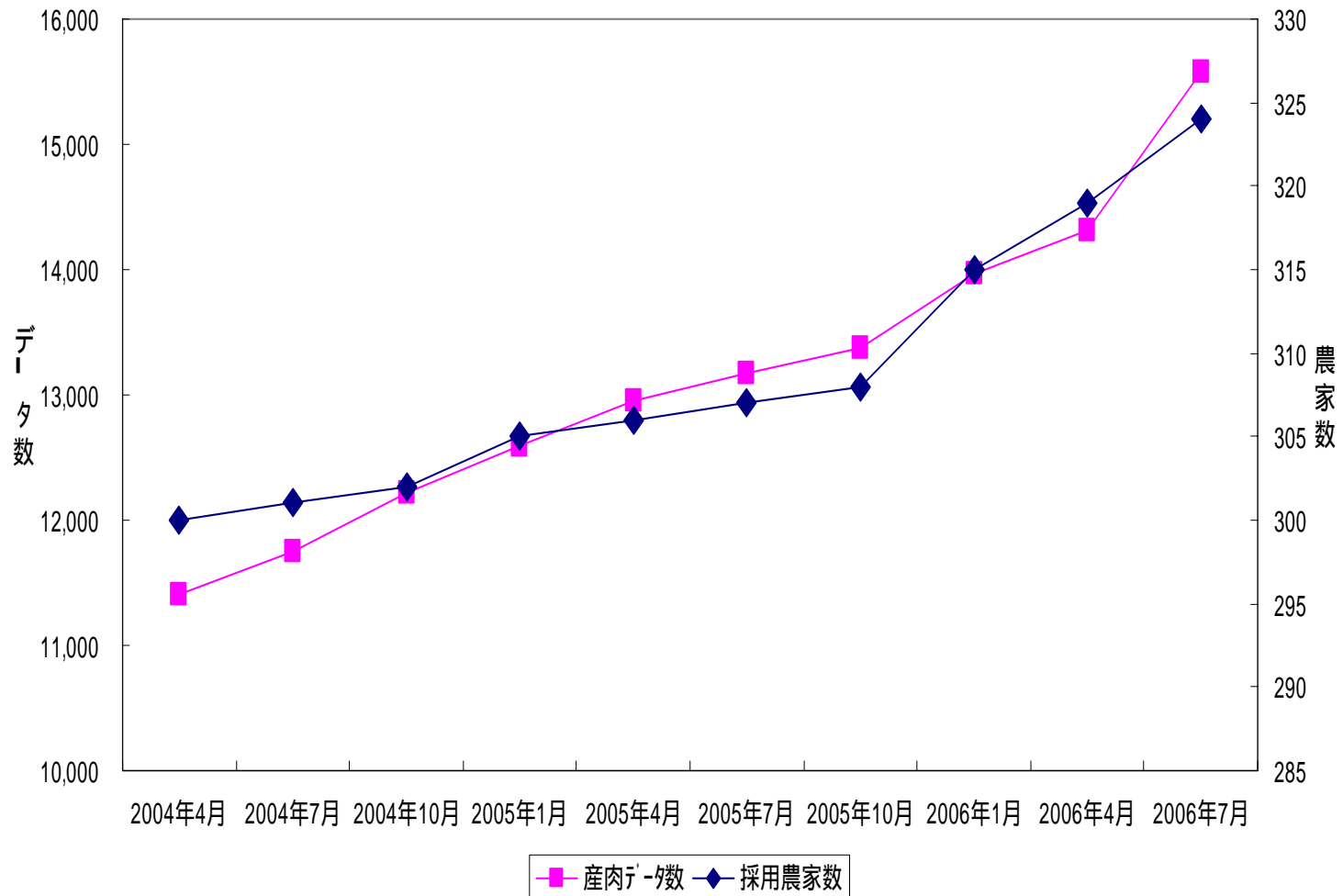
2007.3.30



遺伝的能力評価の経過

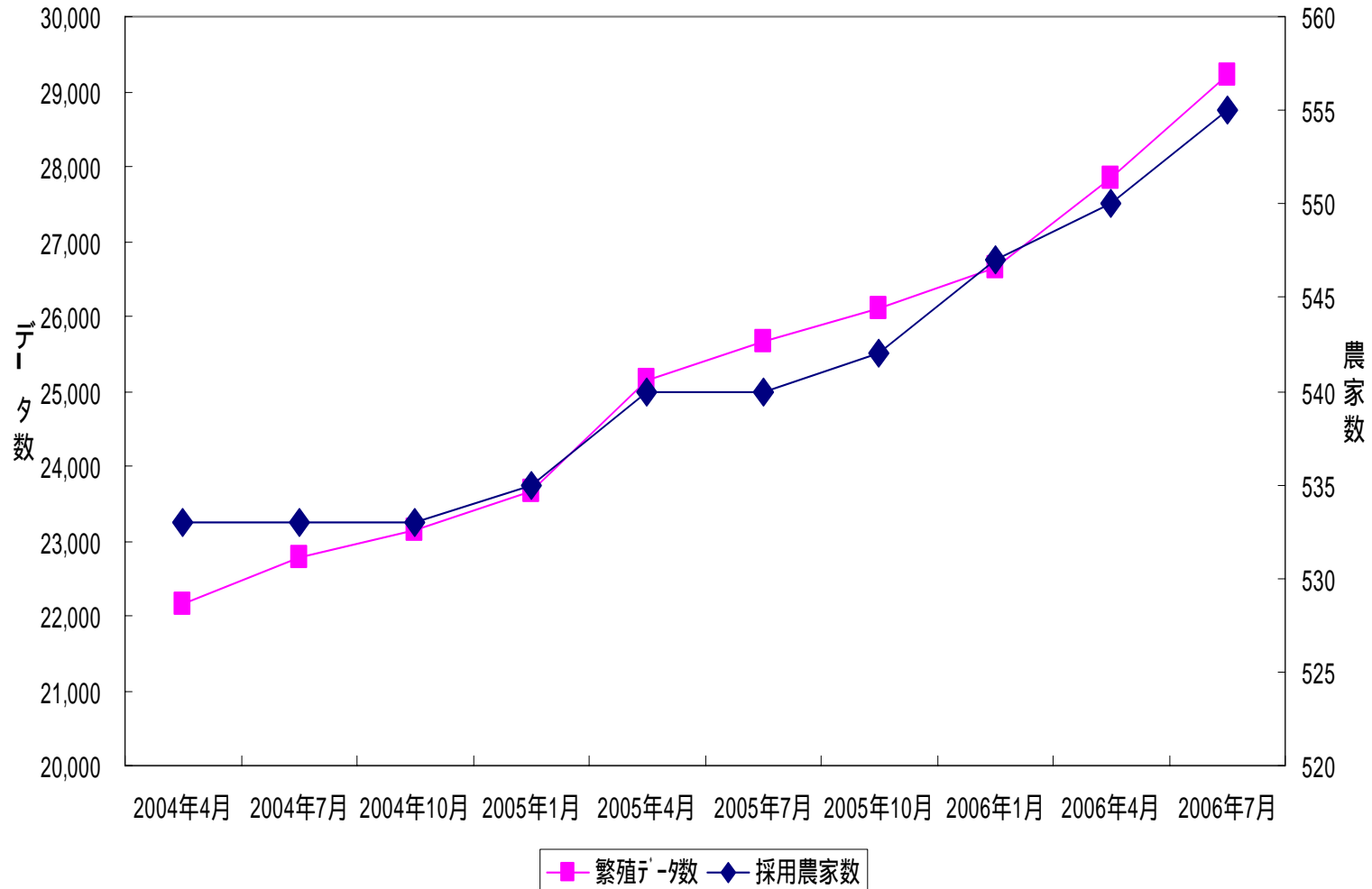
- ・1995年から日本種豚登録協会(現日本養豚協会)の事業として開始
- ・2001年畜産草地研究所から遺伝的能力評価の試行結果が参加者に提供
- ・2002年にセンターが事業を引継ぎ評価開始。
- ・2002年6月センターから最初の評価結果を農場へ提供
- ・現在年4回評価
- ・これまでに4種類のパンフレット配布
- ・家畜改良センターホームページに評価概要掲載

豚評価データ数・農家数の推移(産肉形質)



2006年7月現在
産肉形質累積データ数15,580
参加農家累積数324戸

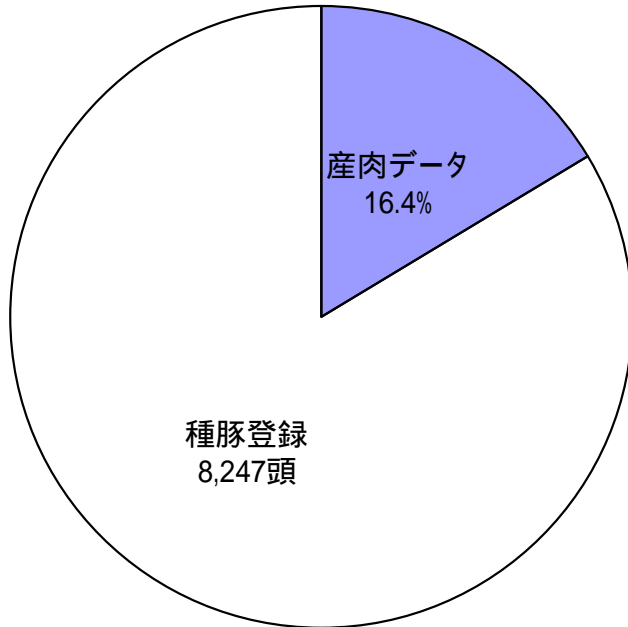
豚評価データ数・農家数の推移(繁殖形質)



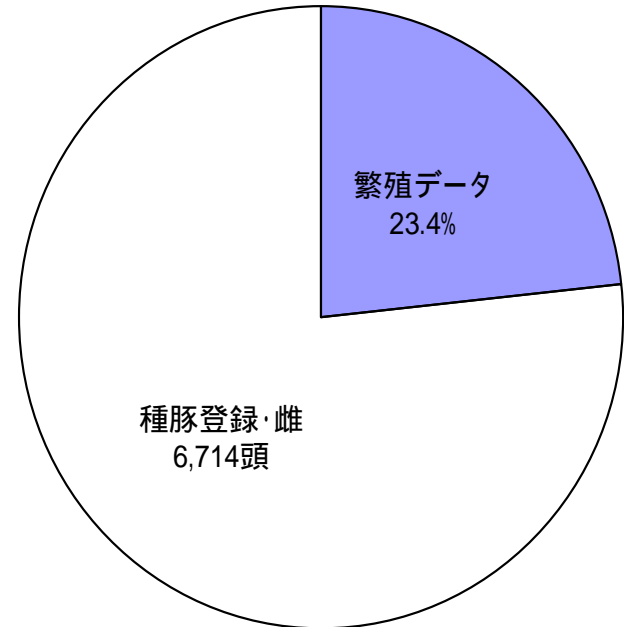
2006年7月現在
繁殖形質累積データ数29,221
参加農家累積数555戸

遺伝的能力評価のシェア

種豚登録頭数に対する
新規参加頭数割合(産肉)



種豚登録頭数・雌に対する
新規参加頭数割合(繁殖)

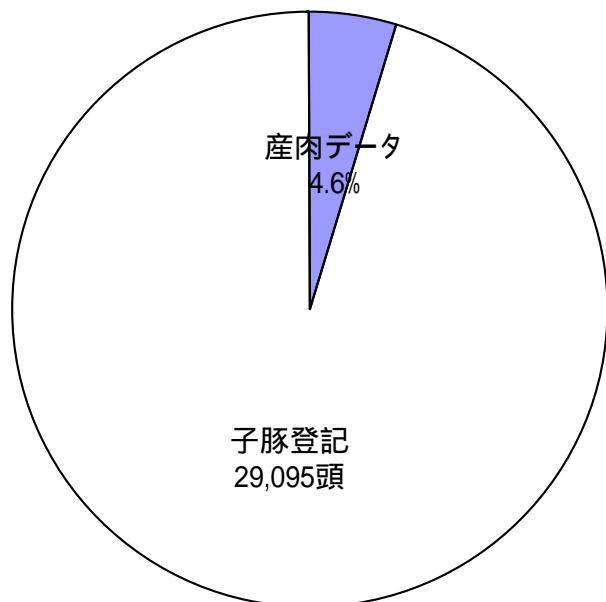


- ・平成17年度年間種豚登録頭数
雄、雌合計: 8,247頭
- ・平成17年度新規参加頭数(産肉形質)
1,351頭

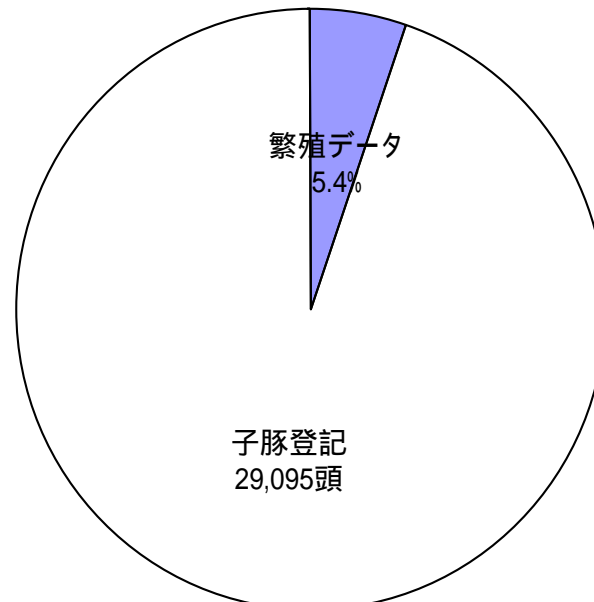
- ・平成17年度年間種豚登録頭数
雌のみ: 6,714頭
- ・平成17年度新規参加頭数(繁殖形質)
1,572頭

遺伝的能力評価のシェア

子豚登記頭数に対する
新規参加頭数割合(産肉)



子豚登記頭数に対する
新規参加頭数割合(繁殖)



- ・年間子豚登記頭数に対する新規参加頭数割合は、産肉形質、繁殖形質あわせて10%程度
- ・遺伝的能力評価にデータが提供される種豚は、ほとんどが子豚登記は受けている。

都道府県試験場等飼養種豚にかかる 繁殖及び産肉能力データの提供

すでに提供している場所

平成19年3月1日

| 場名 | 繁殖成績 | 産肉(面積) | 産肉(深さ) | 備考 |
|--------------------|-------|--------|--------|----|
| 宮城県畜産試験場 | 735 | 1,353 | | |
| 福島県畜産試験場 | 152 | 72 | | |
| 茨城県畜産センター | 31 | 38 | | |
| 栃木県畜産試験場 | 172 | | | |
| 群馬県畜産試験場 | 124 | 681 | | |
| 千葉県畜産総合研究センター | | | | |
| 新潟県農業総合研究所 | | | | |
| 山梨県畜産試験場 | 44 | | | |
| 愛知県畜産センター | | 138 | | |
| 愛知県農業総合試験場 | 24 | 78 | | |
| 三重県科学技術センター | 26 | | | |
| 鳥取県畜産試験場 | | | | |
| 岡山県総合畜産センター | | | | |
| 徳島県農林水産技術センター | 50 | | | |
| 香川県畜産試験場 | | | | |
| 佐賀県畜産試験場 | 39 | 42 | | |
| 長崎県畜産試験場 | | 41 | | |
| 大分県畜産試験場 | | 22 | | |
| 宮崎県畜産試験場川南支場 | 645 | | | |
| 熊本県畜産農業研究センター畜産研究所 | | | | |
| 沖縄県家畜改良センター | 174 | | | |
| 21場所 | 2,216 | 2,465 | 0 | |

データの入っていない場所は、他の検定成績と区別できない等により不明

18年度豚改良アンケートより

・回答のあった都道府県数 43

・すでにデータを提供している 21
(1県において種豚生産施設が
2ヶ所ある)

・現段階では提供していないが
今後提供する 12

北海道 岩手県 秋田県 山形県 神奈川県
富山県 岐阜県 奈良県 山口県 愛媛県
福岡県 鹿児島県

・提供は困難 11
(主な理由:能力検定を実施
していない等)

子豚登記情報を含むデータでの 繁殖形質評価の試行(評価件数の推移)

| | 2006年7月評価 | 子豚登記試行 |
|---------------------|-----------|---------|
| ● 繁殖データ数 | 29,221 | 222,814 |
| ● 採用農家数 | 555 | 1,159 |
| ● 評価結果 | 43,606 | 100,732 |
| ● 公表基準(信頼度0.2)以上の結果 | | |
| 生産頭数 | 26,093 | 75,778 |
| 3週時育成頭数 | 26,093 | 72,171 |
| 3週時一腹総体重 | 25,035 | 36,876 |

参加者増加の取組み

指定種豚場をターゲットに

- ・現在216農場(平成17年度現在)
- ・指定種豚場の要件
 - ：登録豚のうち30～50%が繁殖登録豚以上であること
- ・繁殖登録のデータが、自動的に遺伝的能力評価に参加
- ・自動的な参加以外の農場数は、産肉形質で30戸、繁殖形質で50戸
- ・飼養頭数の多い農場をピックアップし個別に参加要請
- ・特に、精液販売に力を入れている農場を中心におく
- ・指定種豚場大会(毎年11月)等に参加し、参加要請
- ・繁殖・産肉能力の部分的データの有効利用
 - 一部(例:産肉能力であればDGのみ)のデータ提供でも血縁ブリッジ構築や参加者増加のために受け付ける。

肢蹄評価の取組み

- ・肢蹄の評価については種豚生産者から要望の高い重要な項目。
- ・最終目的は遺伝的能力評価に肢蹄評価を加えること。
- ・今年度より「つなぎ」評価調査表を使用し、茨城牧場、沖縄県家畜改良センターにおいて、調査を開始。
- ・「つなぎ」評価調査表によりつなぎの善し悪しを決めるものではない。
- ・「つなぎ」は肢蹄の要素の一つとの位置づけ。
- ・この調査は、実際に評価に使えるか、遺伝率がどのくらいかを探るためのもの。

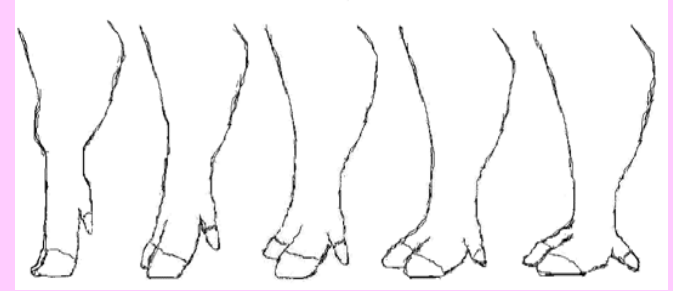
品種 _____ 性 _____ 子豚登記又は種豚登録番号 _____ 農場での名号 _____ 生年月日 _____

30kg時評価調査員氏名 _____

105kg時評価調査員氏名 _____

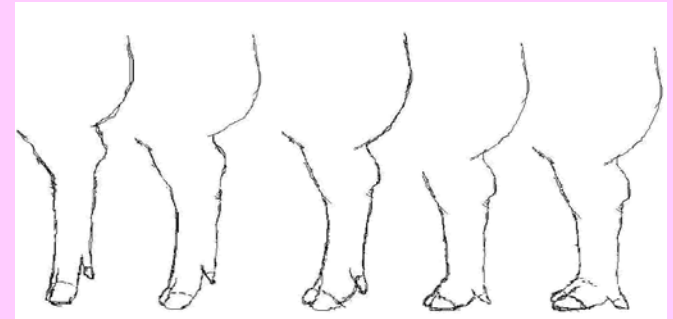
離乳時評価調査員氏名 _____

前肢



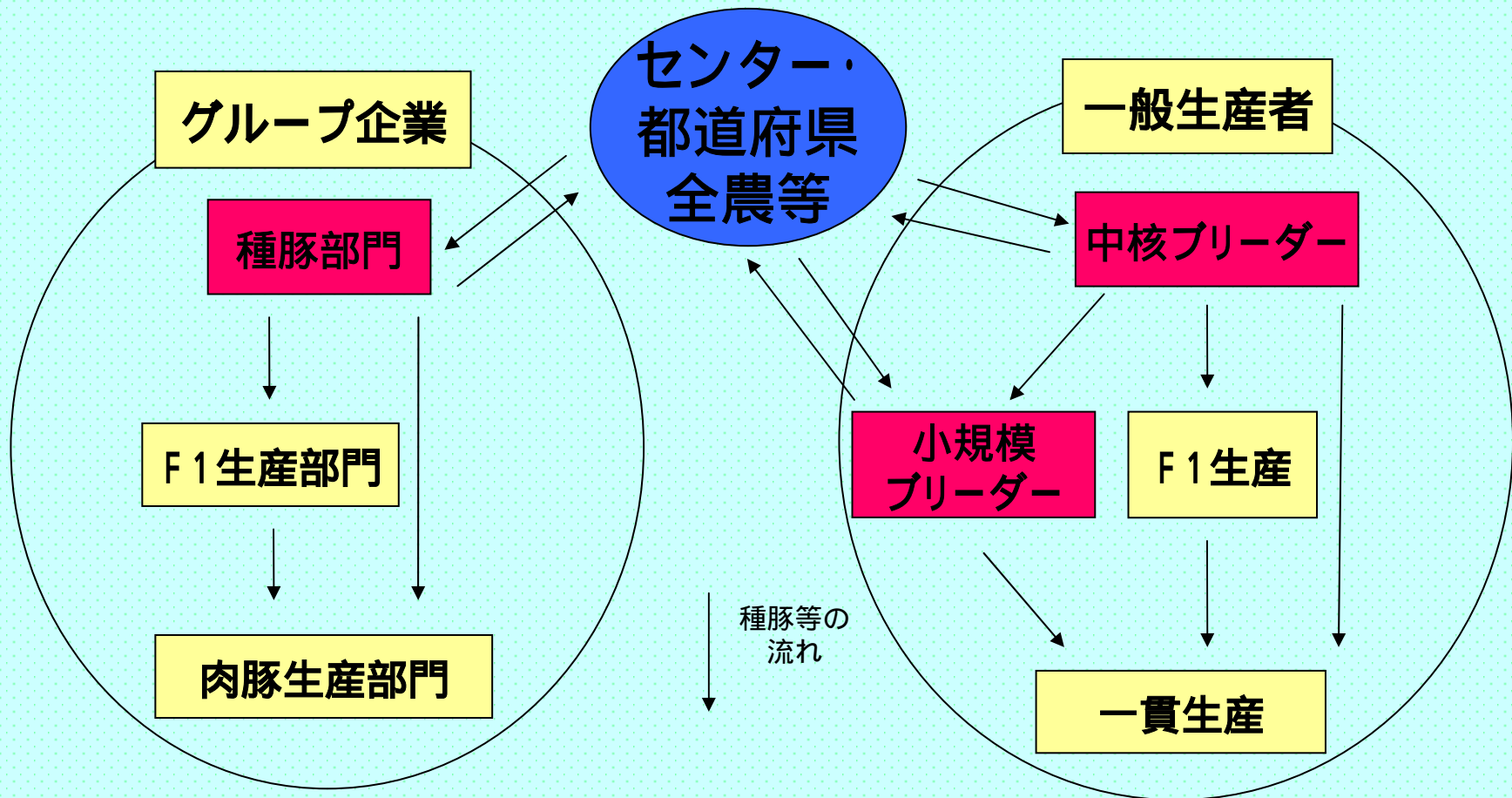
| 体重(30kg) | 検査月日 | 管囲 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------|------|----|-------------------|---|---|---|---|
| 実測: | | cm | コメント: | | | | |
| 体重(105kg) | 検査月日 | 管囲 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 実測: | | cm | コメント: | | | | |
| 離乳時 | 検査月日 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | | | コメント: (のこす ・ トータ) | | | | |

後肢



| 体重(30kg) | 検査月日 | 管囲 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------|------|----|-------------------|---|---|---|---|
| 実測: | | cm | コメント: | | | | |
| 体重(105kg) | 検査月日 | 管囲 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 実測: | | cm | コメント: | | | | |
| 離乳時 | 検査月日 | | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| | | | コメント: (のこす ・ トータ) | | | | |

血縁ブリッジ構築の取組み



- ・センターから血縁ブリッジ構築のため種豚を配布(赤で表示している部分に)
- ・(赤で表示している部分から)センターに種豚を導入することにより血縁ブリッジ構築
- ・都道府県試験場等における系統造成豚等の産肉、繁殖データを能力評価に提供
- ・都道府県試験場等から配布された種豚を介して、農場間の血縁ブリッジ構築

種豚ランキングの取組み

地域内種豚 ランキング

・特定地域内特定品種
における種豚ランキング提供

特定複数農家内種豚 ランキング

・血縁ブリッジが構築されて
いる特定の複数農家保有の
種豚における種豚ランキング
提供

特定グループ内 ランキング

・特定種豚改良グループ等
における種豚ランキング提供

- ・血縁ブリッジが構築された地域、グループ、特定農家において種豚ランキングを提供することにより、遺伝的能力評価の利用価値を高める。
- ・これらを核として、血縁ブリッジを広げていく。